

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【音楽科】

1. 対象

中学部肢体重複学級1～3年生6名（男子1名、女子5名）の集団。全盲の生徒が1名在籍している。両手を使って活動することができる生徒もいるが、視線は向くものの、身体を動かすまでに時間が必要な生徒もいる。教師の呼びかけに視線を向けたり、手をたたいて合図を出したりして自分なりの方法で表出できる集団である。始まりと終わりに気付く生徒もいる。前单元までは音楽が流れる中で自由に音を鳴らしたり、教師の合図を聞いて楽器を鳴らしたりする学習や、音楽を聴いて自分なりの身体表現を行う活動を行ってきた。

2. 单元名「秋の音楽」（全8時間）

3. 单元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・教師の歌や楽器の演奏に気付き、教師と一緒に打楽器の音を出すことができる。 A（ウ）④
思考力，判断力，表現力等	・教師とのやりとりの中で、簡単なリズムに気付き、教師の合図に合わせて楽器をたたいたり、教師の言葉を聞いてリズムを合わせようとしたりすることができる。
学びに向かう力，人間性等	・音や音楽を感じて、自分から楽器に手を伸ばすことができる。

4. 本時の目標

省略

5. 授業展開【 单元 】

解決したい課題や問い
リズムをたたこう。（教師がタンブリンでリズム打ちを見せながら） 『楽しいリズム、真似したいな』 『先生と一緒に楽器をたたきたいな』

考えるための材料			
材料A（環境設定）	材料B	材料C	材料D
<ul style="list-style-type: none"> 音に注目できるよう、同時に楽器を鳴らさず、順番に楽器に触る。 友達の様子が見えるよう、馬蹄形に並ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 音のまとまりに気付くことができるよう、「りんご」「ひこうき」など、2～5文字の身近な単語に合わせてリズム打ちをする。 リズム打ちをはじめる前に、これからたたく拍数と同じ文字数のイラストを提示する。 音の数に気付くことができるよう、教師は「りんご」等の名称を生徒の楽器をたたく音に合わせて言う。音が止まった時には教師も言葉を止めて続きを意識できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 近くの教師が生徒と一緒に、リズムに合わせて楽器をたたく。 すぐそばで、T1が楽器を正しい方法でたたいて見せる。 	<ul style="list-style-type: none"> T1がリズムの手本を示し、「はい。」の言葉を聞き、生徒は楽器を鳴らす。 真似することができたときはすぐに称揚し、気持ちを高める。 1時間の音楽の流れを同じにして、繰り返し活動を重ねることで、活動に気付くことができるようにする。

想定される活動	想定される活動	想定される活動	想定される活動
<ul style="list-style-type: none"> ・ 端から順番に楽器が鳴るのを見たり聞いたりすることで、生徒は見通しをもって自分の番に気付いたり、準備をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ モニターに映されたイラストを見て、期待感をもち。 ・ 自分の打つ音に合わせて教師が言葉でリズムを作っていることに気付き、楽器に手を伸ばす。 ・ 単語に合わせてリズム打ちをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の動きに合わせて身体の緊張を緩めたり、腕に力を入れて楽器をたたこうとしたりする。 ・ 楽器をたたく様子を見たり、リズムを感じたりする。 ・ 教師を見て模倣をしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分から楽器に触れようとしたり、リズムに合わせてたたいたりする。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- ・ T1が生徒の前で手本を見せる。毎回「はい。」と合図を出すことで、やることに気付くことができるようにする。
- ・ 好きな楽器を目の前で鳴らすことで、やりたい気持ちを高める。
- ・ 友達が楽器を鳴らして教師とやりとりする様子を見ることで、やることに気付いたり、自分も楽器に触りたいという気持ちを高めたりする。
- ・ T1の手本や「はい。」という言葉に合わせて自分が楽器を鳴らしたり、T2以下の教師と一緒に楽器を鳴らし、拍手や称揚を受けることで、「できた。」「もっとやりたい。」という気持ちをもつ。「りんご」などの身近な単語に合わせて楽器をたたくことや、演奏に合わせて教師が言葉でフィードバックすること、言葉の途中で演奏が止まったときには教師も言葉を止めることで、音のまとまりに気付くことができるようにする。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

（音楽での成果）

- ・ 歌や演奏に気付いて、楽器を鳴らそうとしたり、身体を動かそうとしたりする。

（音楽以外の広がり）

- ・ 教師の手本に注目をする。
- ・ 教師の真似をしようとする。
- ・ 楽器を介して教師や友達と関わろうとする。